

# 第14回 CRC と臨床試験の あり方を考える会議 2014 in 浜松

**演題：沖縄ゆいまーるCRC勉強会設立1年の  
歩みと課題**

**所属：沖縄ゆいまーるCRC勉強会 運営委員会  
社会医療法人仁愛会 浦添総合病院  
治験センター**

**発表者：池原 由美**

**本演題発表に関連して、開示すべきCOI関係にある企業  
等はありません。**

**目的**

離島県特有の地理的問題から学習機会が限定される沖縄県において、組織を越えた県内CRCの学習機会の確保と情報共有の場として勉強会を設立した。初年度の活動状況と今後の課題を報告する。

**方法** 沖縄における学習環境の問題

飛行機での移動が不可欠

当日移動はハイリスク、前泊が必要  
費用がかかる・・・  
休みが取れないことも・・・

沖縄県内での学会等開催は  
限られているのが現状

臨床研究・治験に係るCRC対象の定期的な勉強会等がない  
参加しないかぎり、学会や勉強会の内容は分からない  
最新の情報入手の遅れ・・・学びたくても学べない!



沖縄ゆいまーるCRC勉強会の発足

沖縄の地理的問題からおこる情報過疎によって、県内の臨床研究・治験の品質低下を来すことがないように、勉強会を設立

**発足** 運営委員  
発起人+施設とSMO各2名ずつ

**目標**  
1. 最新の情報共有による知識の整理  
2. 事例検討による課題解決  
3. 相互サポート

沖縄ゆいまーるCRC勉強会の運営

勉強会の内容決定

参加者へアンケートを実施、意見を反映して内容を検討

- 講演  
運営委員  
外部ボランティア講師
- 学会参加の報告会
- グループワーク
- 各所属（施設・SMO）から取組の発表



情報共有

情報共有ツールとして、SNSを活用



勉強会風景

- 参加型スタイル
- 最新の情報共有
- 所属を超えた自由交流



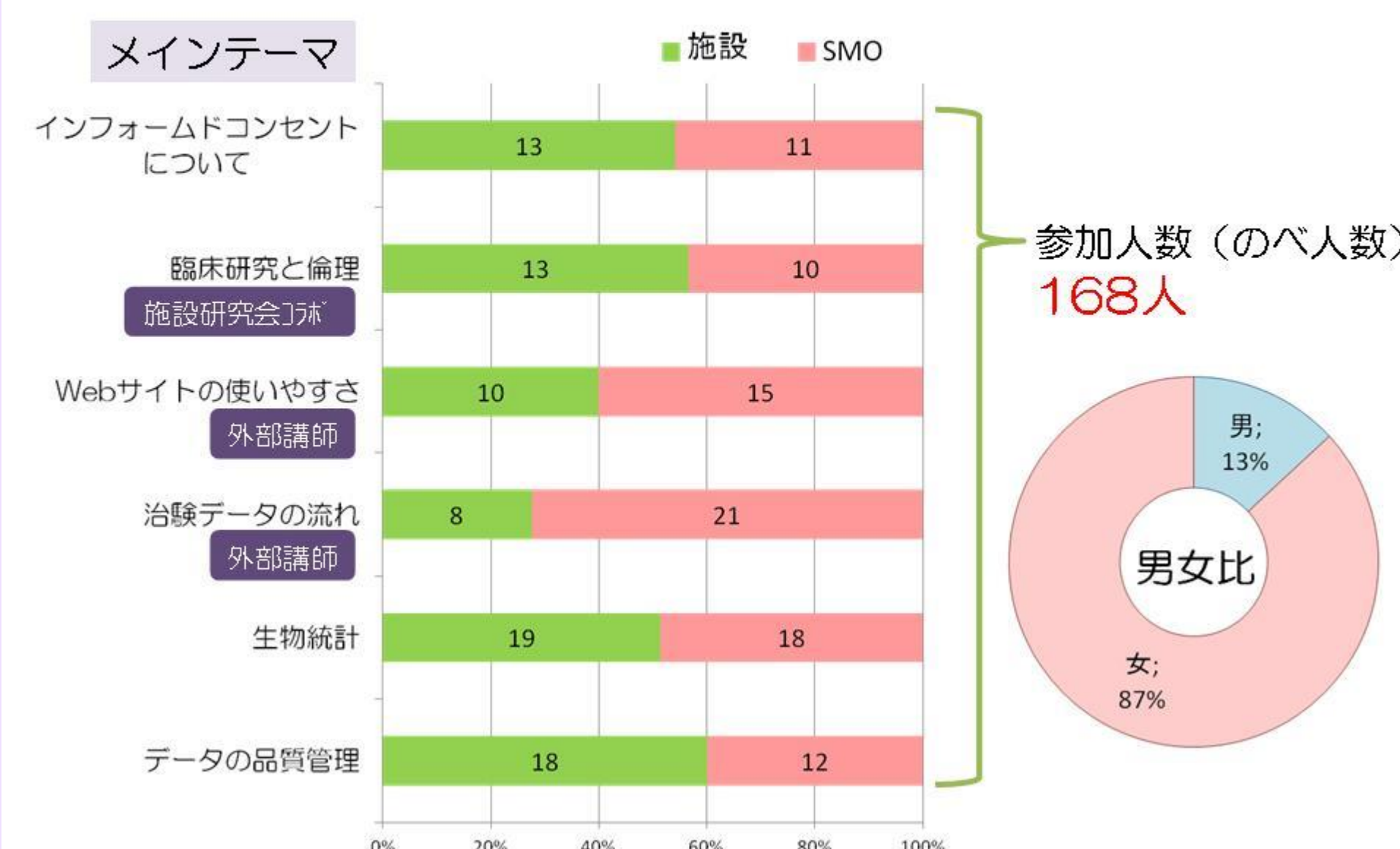
お弁当を食べながら意見交換

講師：ボランティア講師  
外部講師  
運営委員/関係者等  
参加費：100円  
(主に資料代)



グループワークで問題抽出  
・臨床研究/治験と倫理  
・よりよいインフォームドコンセント等

参加人数・テーマ別参加者割合



参加者の意見/勉強会への期待

- 沖縄で勉強できる
- 業務に役立つ
- モチベーションの維持
- 自施設/自社以外で交流したい

今後も勉強会に参加したい!

沖縄で勉強したい!!声が多。ゆいまーる勉強会ではボランティア講師をお待ちしております。



**結果**

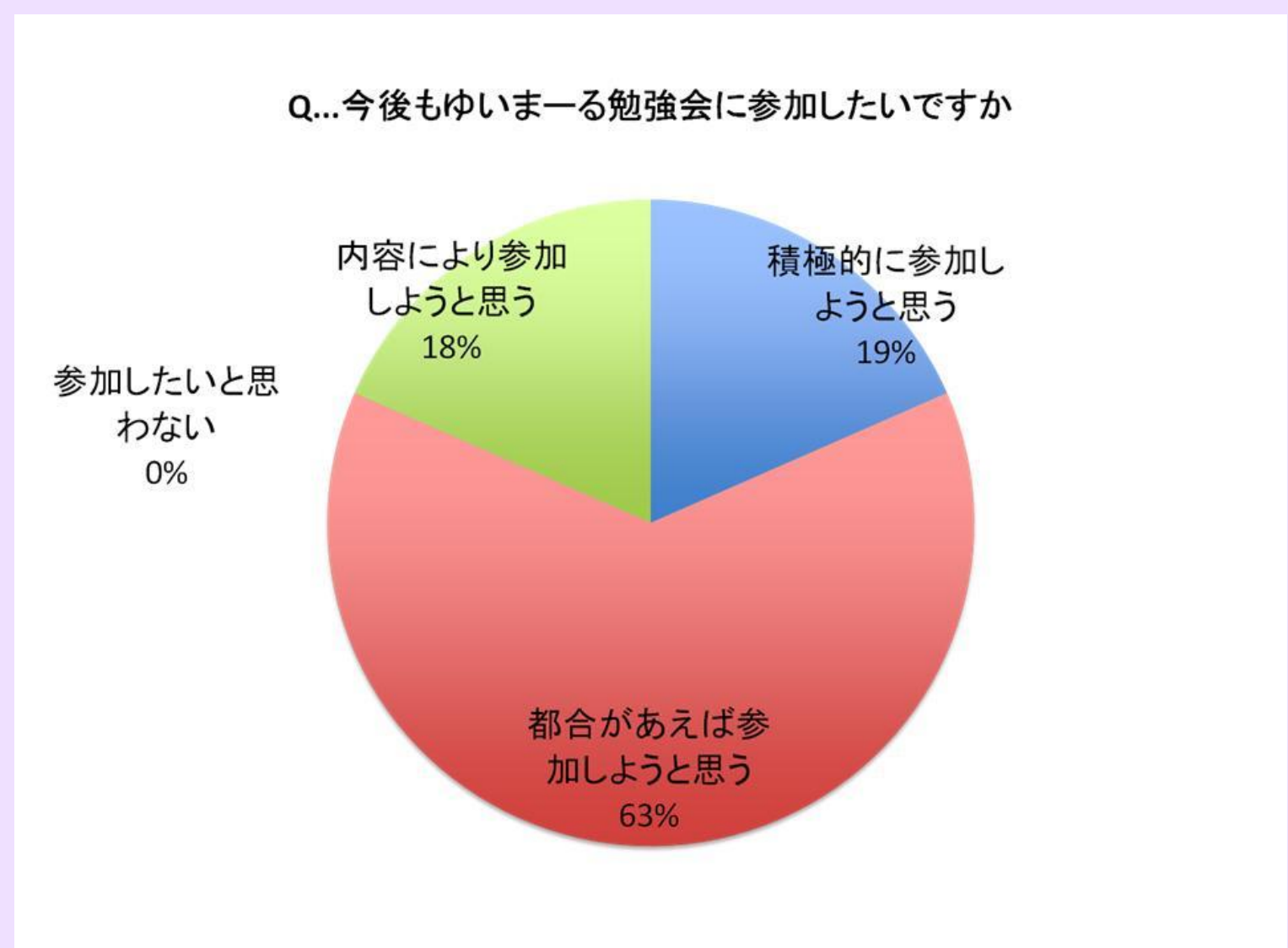
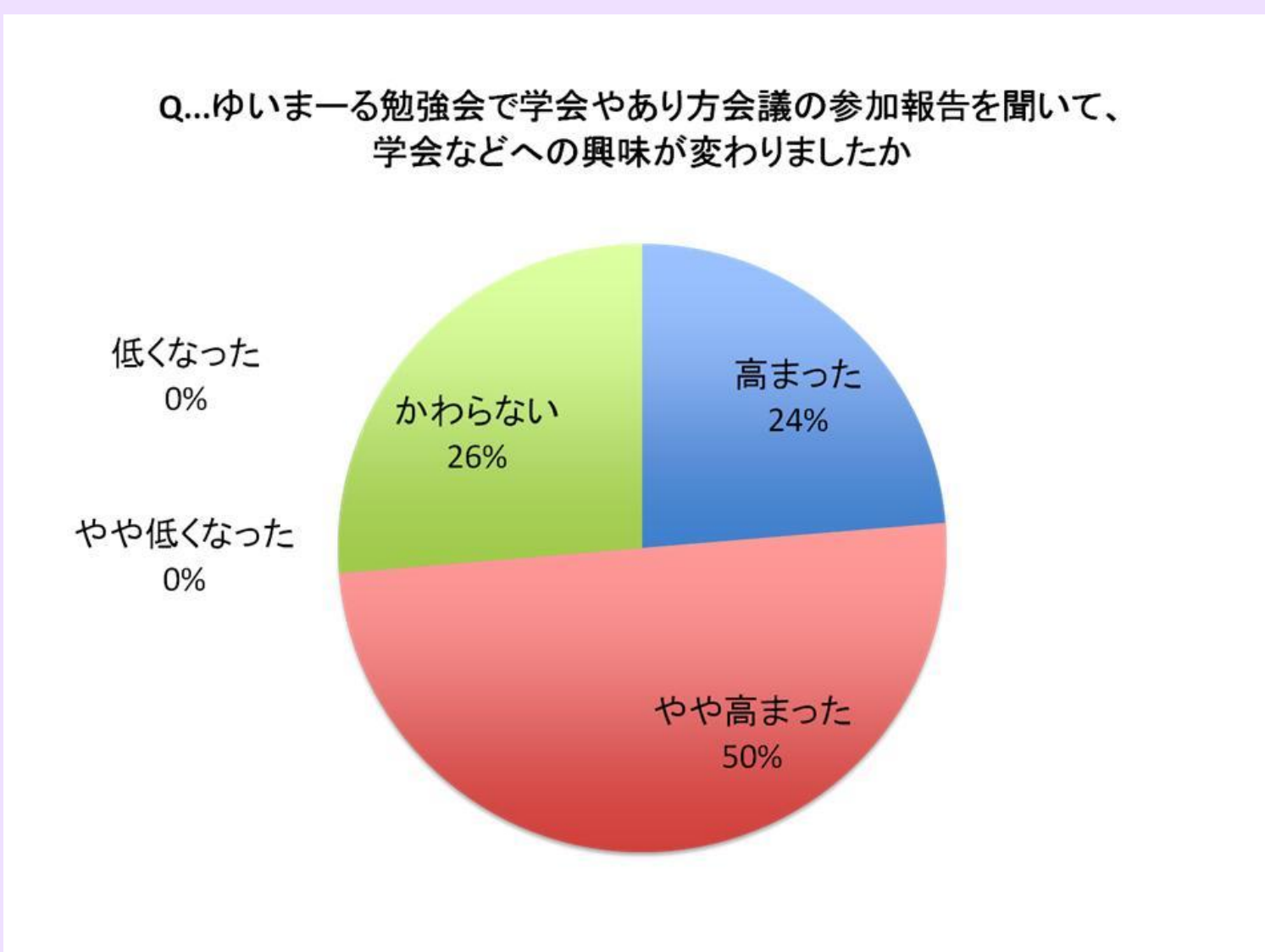
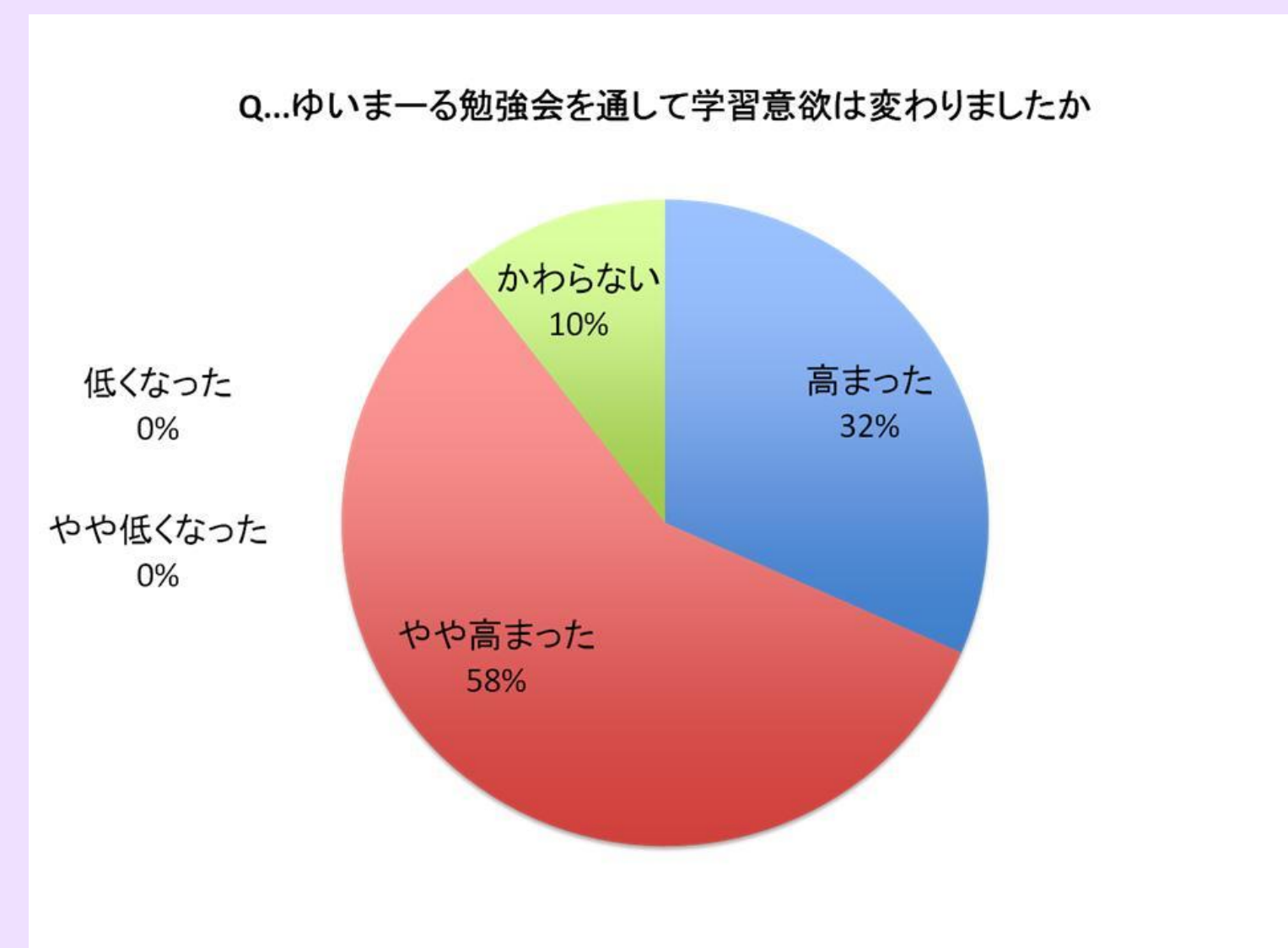
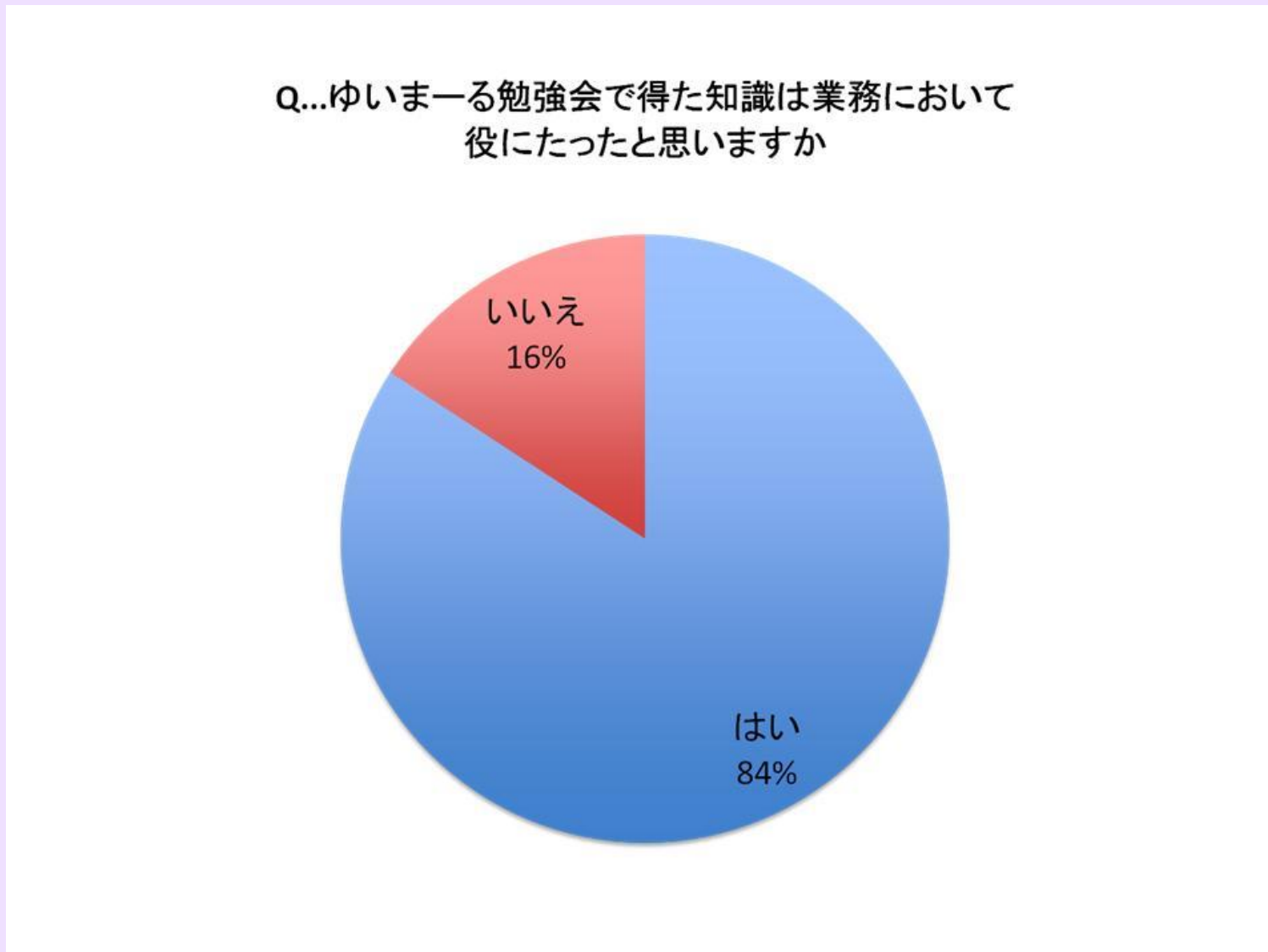
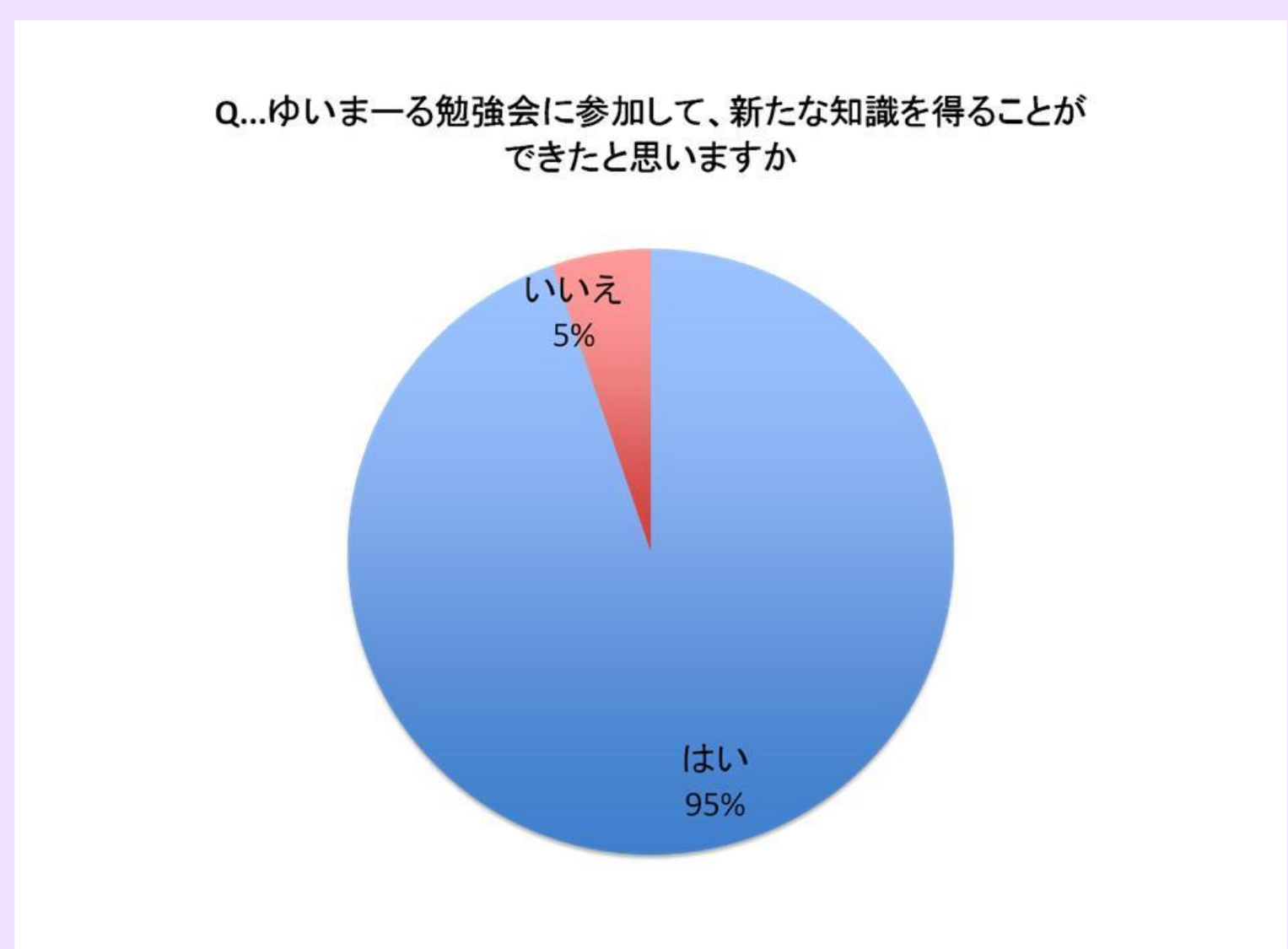
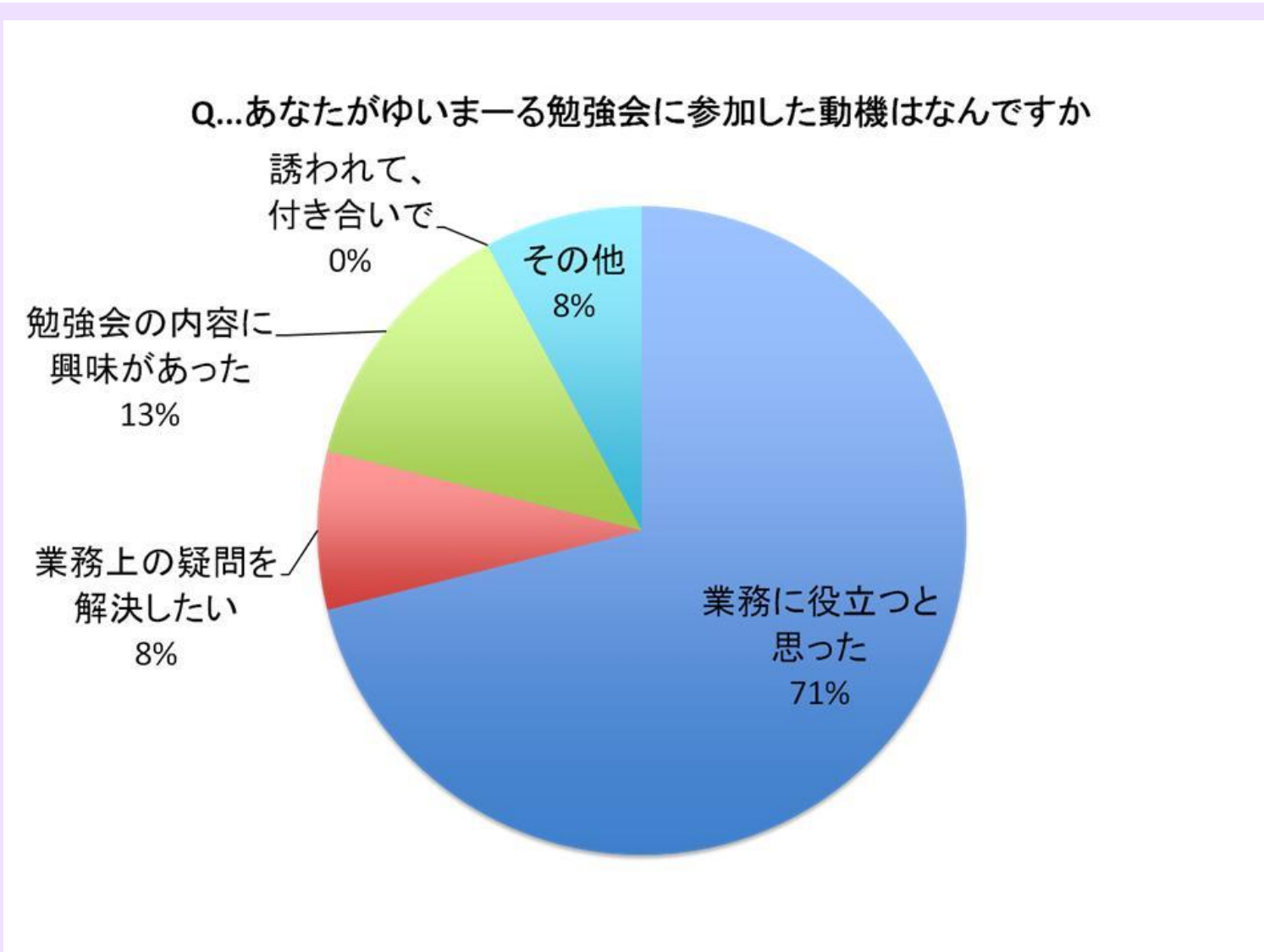
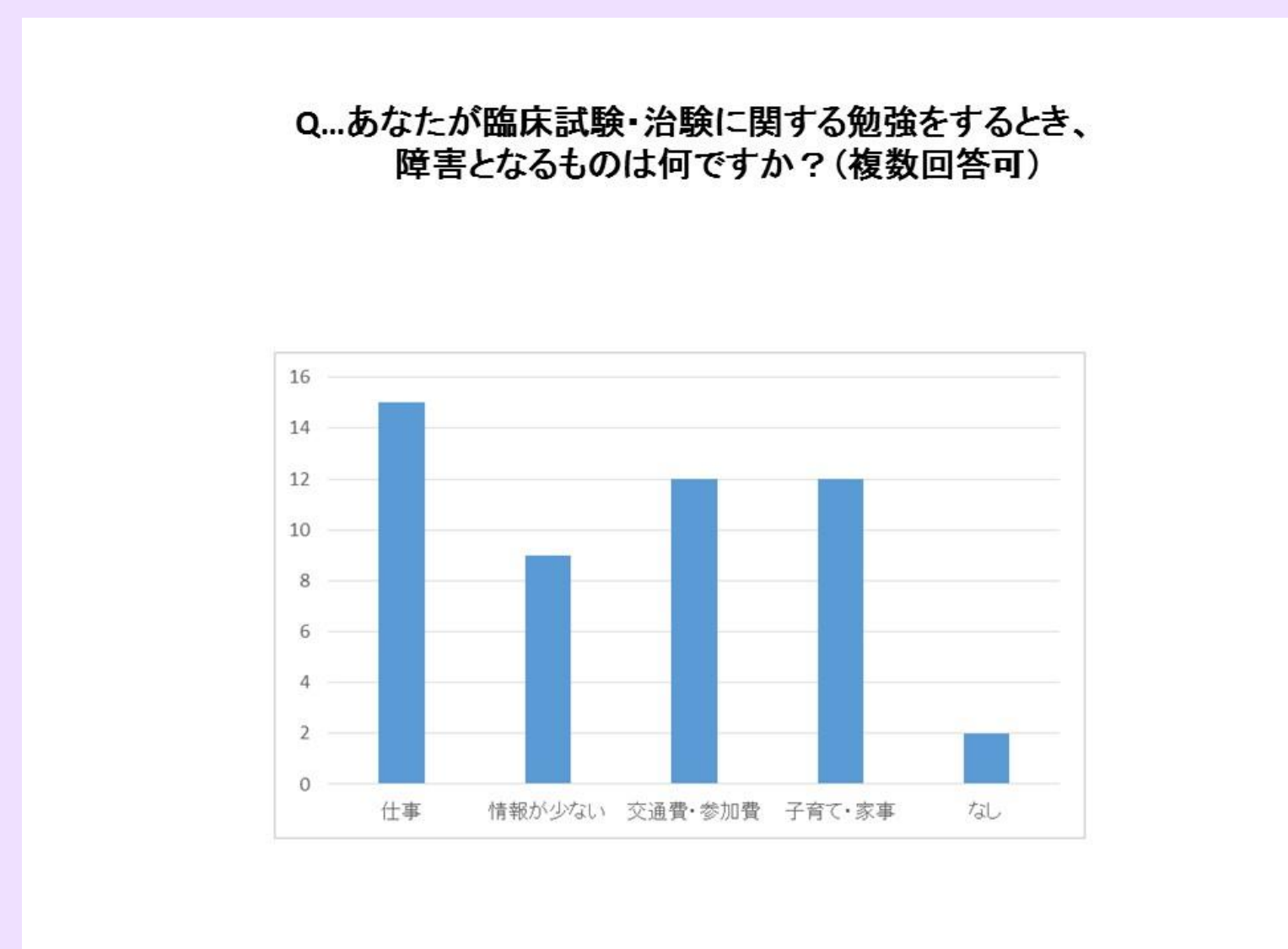
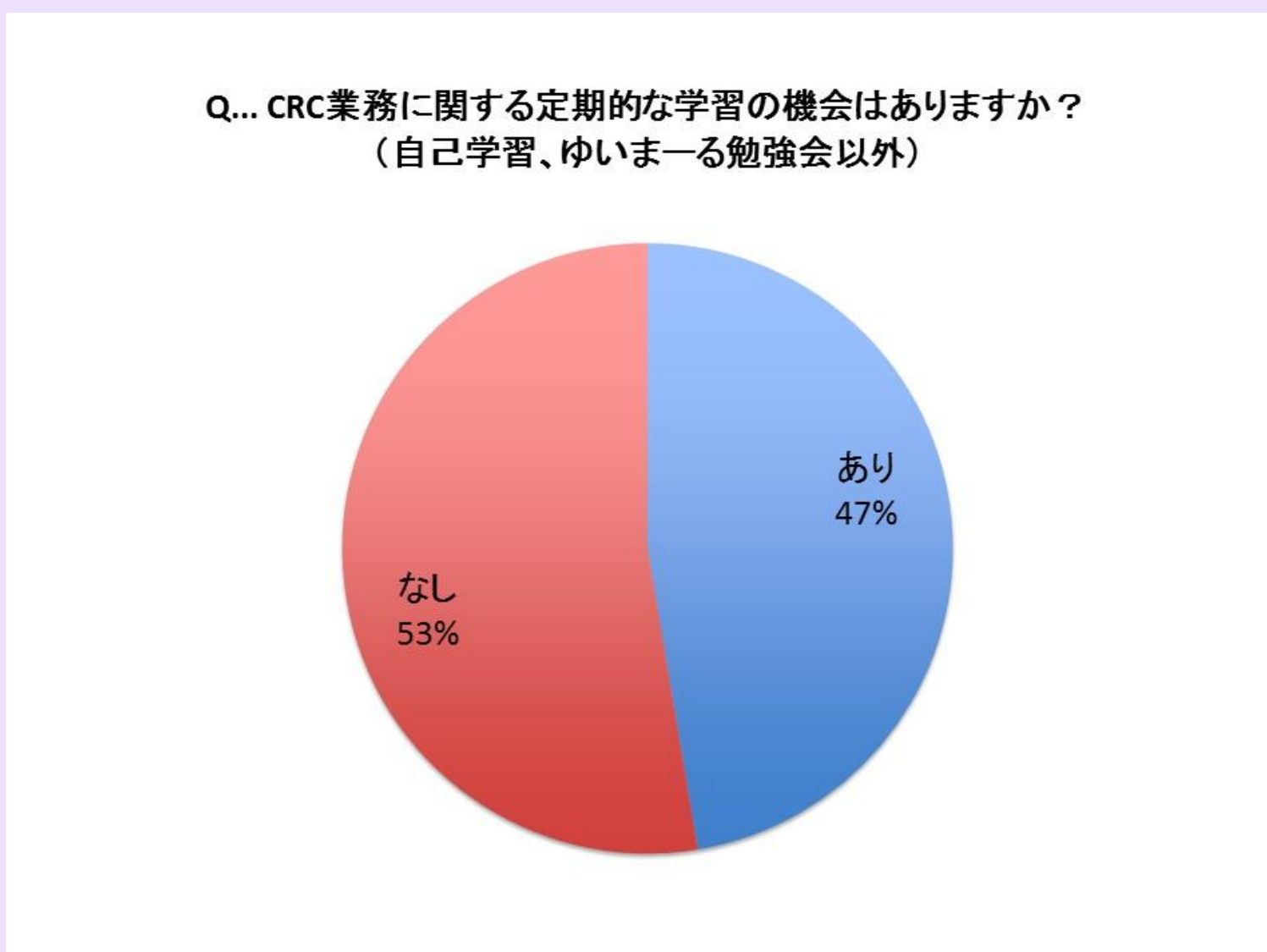
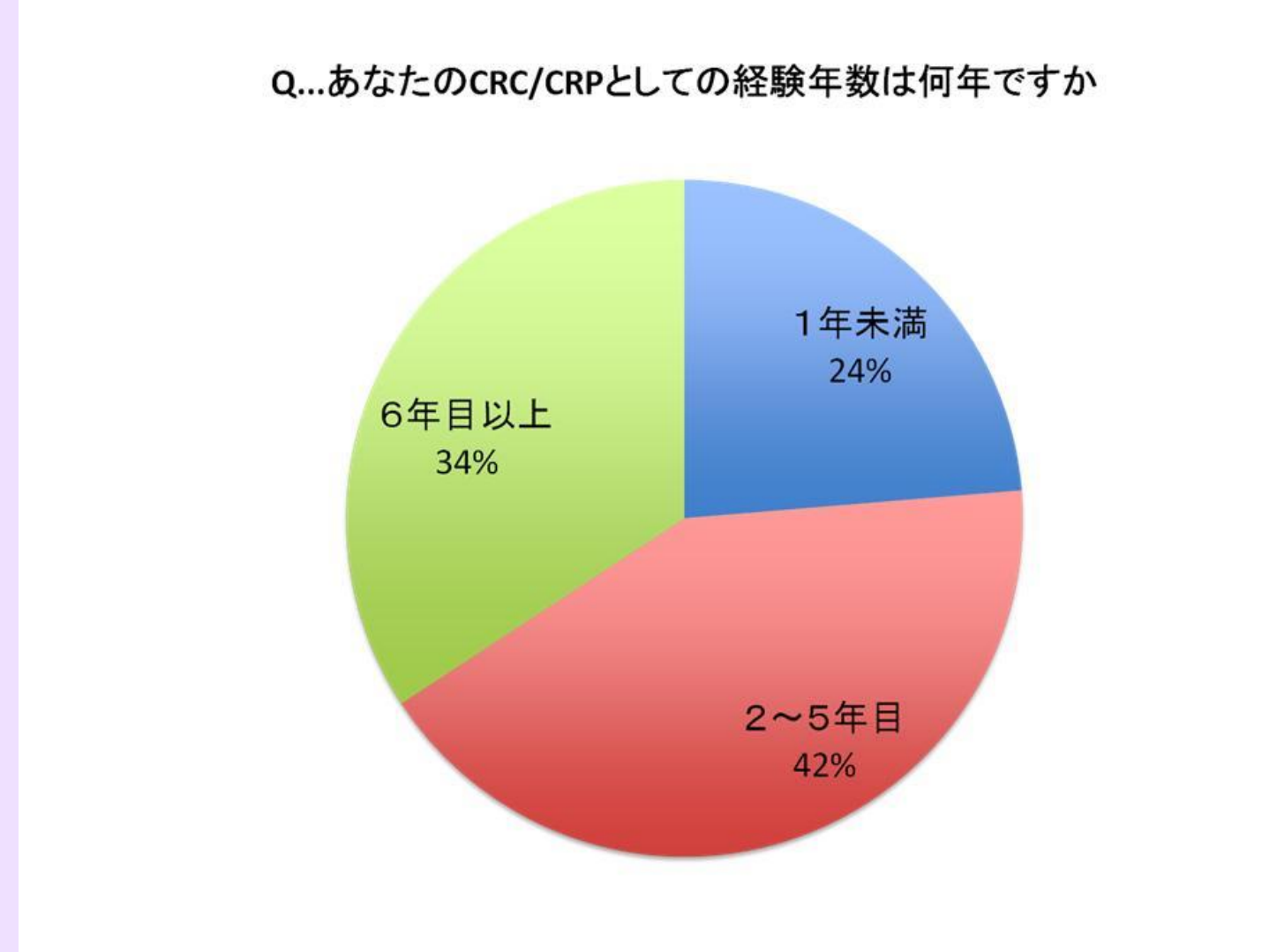
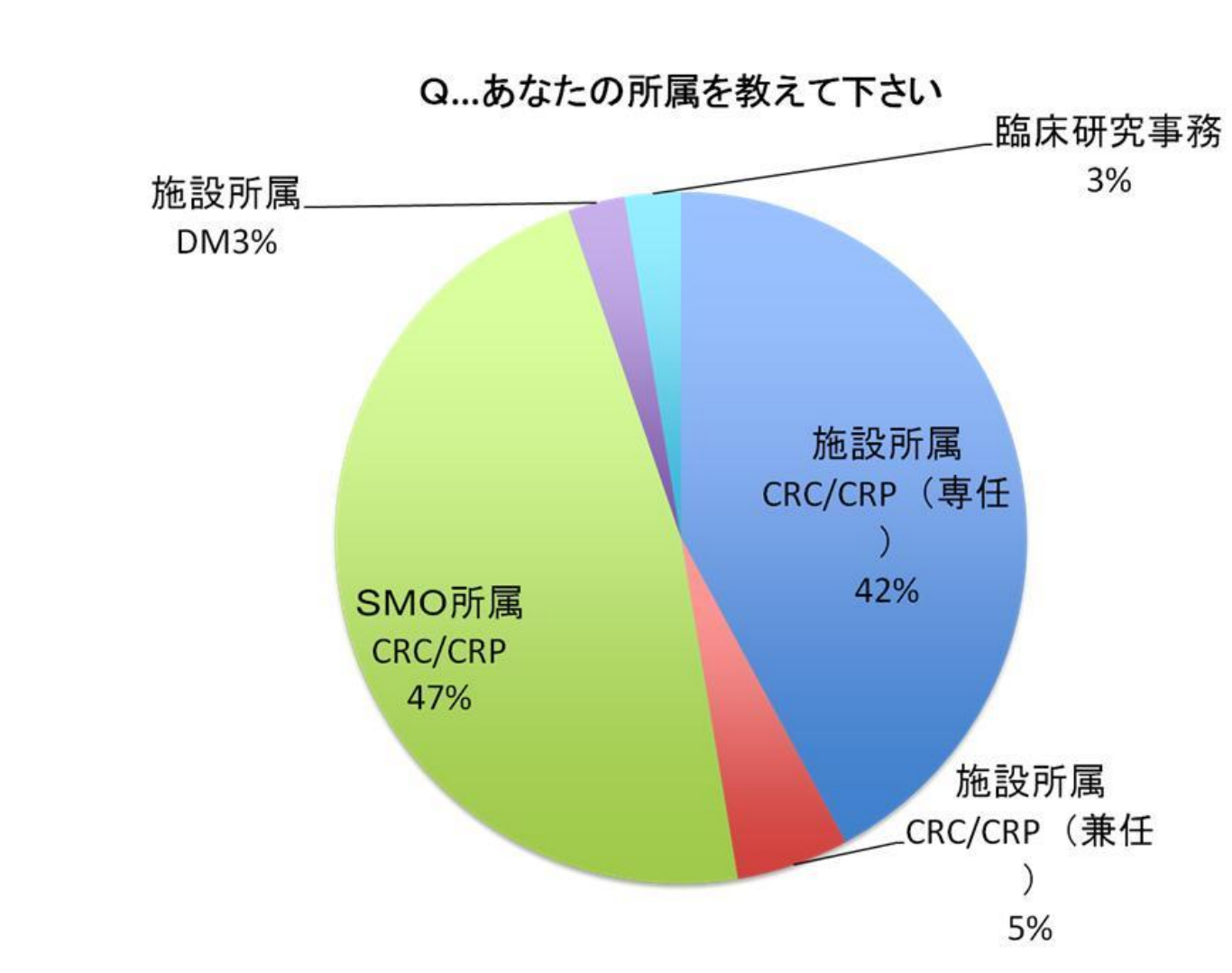
一年間の活動成果の検証と今後の課題を抽出するためにアンケート調査を実施 (一部抜粋掲載)

実施期間：2014.05.30～2014.06.08

対象者：1回でも勉強会に参加した人

(参加者のべ168人、平均28名)

回答者：38名



アンケート結果のまとめ

- 参加者の所属に偏りはなく、幅広い経験年数のCRCが参加している
- 定期的な学習機会のないCRCが半数以上だが、学習意欲自体は高い
- テーマにより参加者の所属組織に偏りが見られる
- 新たな知識の習得や業務に役立つ知識が勉強会により得られている

- 勉強をする時に障害が“ある”との回答が95%を占めたが、仕事以外の理由（費用、家事/育児のため県外学習は困難、情報が少ない）には、県内学習・情報共有の場の本勉強会の活動意義がある
- 会の活動は学習意欲の向上や学会等への意識変化につながっている
- 参加者の多くが本勉強会の意義を実感し、継続参加を希望している

**考察**

組織の枠を超えた交流の機会がなかった設立当初は、組織に関わらず誰でも参加しやすい講義中心の形式とし、回を重ねる毎にグループワークを増やすことで、積極参加型の勉強会となるように運営を工夫したことで、参加組織・参加者が徐々に増えた。アンケートの結果では、本勉強会は県内CRCの学習意欲を向上させており、勉強会の意義を実感し継続参加を希望する者の割合は高かった。一方で、学習機会を逸する原因として、費用や情報不足に加え本勉強会の参加者の87%が女性であり、家事・育児が要因として大きい。高い学習意欲を持ちながら学びの場への参加が難しい離島県沖縄のCRCにとって、県内で学ぶことが出来る本勉強会の意義は大きいと考える。今後は、毎回の勉強会開催時に前回の振り返りを行うことや、グループウェアの更なる活用により、学習意欲を持ちながらも勉強会に参加できなかったメンバーへの支援の充実を図ると共に、より参加しやすい会場・日程の検討が重要だと考える。また、テーマにより参加者の所属に大きな差があるため、臨床研究・治験のいずれかに偏ることのない、参加者のニーズに合うテーマの選定も課題である。